

司会すると、「マンマよ！マンマよ！」と眼を輝かせていたが、自分の思う「マンマ」とはちがっていたのか、表情が止まっていた。ピアノストが色々な曲を弾くと、背中に向かつて「聴いてるで！聴いてるで！」と声を掛ける。歌の好きな人が多く、「ふるさと」を皆でユニゾンで唄い、マイクをまわすとはりきって歌った。元氣な歌声にびつくりした。「又、半年後にお願います。」とリクエストが来ました。老人ホームの演奏会は、松田、毛利は初めてで、よい経験になりました。おじいちゃん、おばあちゃんがとても可愛かったです。

京都鴨沂会茶道教室

⑳ 有料老人ホーム グランダ山内

真継 宗美

平成二十八年二月十二日 ボランティア二名と矢島理事「抹茶一服で裏千家茶道をたのしみましょう」

京都市内のボランティアは始めてでお茶の心得のある方もおいでとのこと。楽しみと不安半分で伺いました。扇面「茶 長寿の友 鵬雲斎大宗匠」白梅 曙椿、花入朝日豊斎造 猿の香合を飾り、殆どの方が拝見をして下さり、嬉しくなりました。毛利が盆略点前を、グランダで用意の鶴屋芳信の菓子と北川半兵衛の薄茶で、点出しで一服、その後、盆略点前を各自で経験者の方は楽しくそつうに教えながら、車椅子の方、流動食の方は別に職員の方が、私はそこまで理解していなかったので反省しまし

た。皆様に喜んでいただけたかなと思ひながら、ボランティアに参加できたことに感謝の一日でした。

留学生伝統文化学習と生活適応支援

文化教室で培った伝統文化の知識と手技をコミュニケーションツールとして外国人留学生に対する日本伝統文化の教育に寄与し、生活適応上の指導助言など留学生支援により国際理解を深め地域社会の活性化へ貢献することを目的として、外国人大学院留学生を文化教室に受け入れ、華道教室および茶道教室で個別指導を行い、授業料の一部を支援した。公益財団法人AFS日本協会京都支部の高校留学生を対象とした伝統文化体験学習会を開催し、さらに、今年度は、MIRAIプログラム実施団体であるAFSが受け入れた大学・大学院留学生への伝統文化体験学習会の開催および鴨沂会員による留学生のホームステイを実施した。

「外国人のための日本伝統文化教室」

茶道教室 裏千家 講師 真継 宗美

受講者…ソフィ・ヂュマン（フランス女性）

日仏学館講師、京都外国語大学講師

授 業…平成二十七年九月十七日 盆略点前の指導

受講者…チェン・イアン・セイデイ（アメリカ女性）

同志社大学大学院留学生

授 業…平成二十七年十一月～平成二十八年三月までの五回

炉薄茶点前と初釜の指導

華道教室 草月流 講師 木平 珠影

受講者…チェン・イアン・セイデイ

授 業…平成二十八年二月・三月の二回

生け花指導

「日本伝統文化体験学習会」

公益財団法人A F S 京都支部顧問 荒木 泰子

ここ数年秋に私どもA F Sの高校留学生がお世話になり、昨年十二月には外務省が初めて招待したM I R A I プログラムの、ヨーロッパ、中央アジア諸国の大学、大学院生（一五〇名来日、うち三名が京都に三日滞在）も体験させていただいた茶道、華道、書道の教室。一流の先生方に文字通り手取り、足取りで教えていただき、生徒、学生たちに深い印象を与えました。高校生の中には華道の剣山が欲しいとか、茶道具一式を持って帰れたらいいのにと言うものも出ました。お茶の味はいま一つアピールしなかったようですが、呈茶までのしつらえ、プロセスも詳しく教えていただき、ふくさ裁きに悪戦苦闘し、足のしびれに音をあげながらも楽しませていただきました。

書道は筆の持ち方からご指導いただき、それぞれ好きな漢字を色紙に書いて、先生の落款つきで持ち帰らせていただき、大喜びでした。

華道はほぼ自由に生けさせていただきましたが、先生の褒め方のお上手なことに感心しました。同じように教えていただきましたが、受け止め方にはやはり年齢の差もあつてか、大学生・院生たちのほうが理解は深かったようで、先生方も少しは教え甲斐を感じていただけたかと思えます。私どもA F Sはお世話になるばかりですが、この事業を今後とも続けていただけますことを切望しております。

A F S (American Field Service)

A F Sは、世界大戦中に傷病兵の救護輸送に携わったアメリカのボランティア組織American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）の活動を起源に持ち、世界的な広がりを持つ組織です。国際本部をニューヨークに置き、現在、A F Sの加盟国は約六十か国、交流国は一〇〇か国以上に及びます。日本でのA F S活動は、現在では日本全国八十の支部で留学生の受け入れ、派遣、各種交流活動を行っています。A F Sの活動は、日本および世界各国のボランティアによって支えられ、留学生の派遣、受入れなどのプログラムや、各種のイベント、交流活動の中心となつて活動しています。A F Sで留学生を受け入れるホストファミリーは、すべて金銭を受け取らないボランティアの家庭です。

外務省 MIRRAI プログラム

(Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic exchange-Initiative)

外務省の「対日理解促進交流プログラム」の一環として、欧州・ロシア・中央アジア・コーカサスから、将来各界で活躍が期待され、また対外発信力のある大学生・大学院生一五〇名が来日し、日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成二十七年十二月十五日から二十二日の日程で次のような三項目のプログラムが行われました。

- (1) 日本の強みのみならず課題も含めた日本の現状を理解してもらうためのセミナー及び大学生との交流を実施。
- (2) 教育・研究機関、先端・伝統産業、文化承継地への訪問、大企業への視察及び関係者との意見交換。
- (3) 日本各地へのホームステイの際に、地方自治体、地場産業、歴史学習施設等への訪問・視察及び関係者等との意見交換やワークショップ等の交流行事及び伝統芸能等の体験型行事に参加。

「高校生留学生伝統文化体験学習会」

日時：平成二十七年九月二十六日（土）

会場：鴨沂会館新館一階和室、会議室および談話室

参加者：留学生五名（米国男子生徒、ハンガリー女子生徒、ドイツ女子生徒二名、ベルギー男子生徒）

日本人高校生八名、AFS 日本協会京都支部員

授業：草月流 華道 「重陽の節句に菊を楽しむ」

「自由花・秋の美しさを楽しむ」

講師 木平 珠影 助手二名

裏千家 茶道 「益略点前の実習と呈茶」

講師 真継 宗美 助手四名

書道 「基礎から創作へ」

講師 橋爪蒼苑

鴨沂会館新館一階談話室において矢島理事の司会で会長の開会の挨拶に引き続き、華道、茶道、書道の講師および助手をつとめるボランティアの文化教室員が紹介され、留学生とAFS日本協会が自己紹介を行った。

十三時五十分から一〇一号室において 全員で書道を体験し、十四時三十五分から十六時まで新館一階会議室と和室において華道と茶道教室の講師が伝統文化の説明をし、助手の手助けで実技指導を行った。授業終了後、談話室に留学生がそれぞれ作品を持って集まり、留学生の体験学習発表に講師が評価と感想を加えて、伝統文化教室員および本会理事とも相互交流を図った。

「いけ花教室に留学生をお迎えして」

木平 珠影

この日の参加者は留学生男子二名女子三名、附添として

のボランティアの方々を含めて十四名となりました。アメリカ、ハンガリー、ドイツ、ベルギーの留学生と日本の高校生が国境を越えてのお友達として話ながら、実に鮮やかな作品をいける高校生には驚きました。

お稽古の順序の最初は基本の勉強として、花型図による基礎いけ花を学び、そ

の後、「重陽の節句に菊をいける」、「自由花・秋の美しさを楽しむ」をテーマとした各自の自由作品でいけ花を楽しんで頂き、伝統のいけ花と自由作品とをいけくらべて頂いた。菊は日本では種類も多さまざまな場所で用いられ、しかも高貴な花として扱われていること、香りのよさも大切な花でありながら、生活の花として一年を通じて愛用される貴重な花材であることに理解を深めながら、いけ花をたのしんでいただきました。

今回のいけ花のお稽古には、会員の皆様にご寄贈頂いた花器等も使用し、若い留学生の楽しまれるご様子に、花でも陶器でも美の世界には国境が無いと改めて感動しました。



「盆略点前でご自服を」

真継 宗美 六名

高校留学生の茶道教室のボランティアは同じ季節に三回目、出席者は、アメリカ、ハンガリー、ドイツ、ベルギー、五名 日本人高校生八名が参加され、名前までいただきましたのに、四十分二回の指導では、充分のことは出来ず残念に思います。高野さんの棚薄茶点前を見学、和菓子、呈茶で一服、その後、各自で盆略点前、帛紗さばきから茶を入れ茶室でお茶をご自服、お味は如何だったでしょう。その時の皆様の顔の表情が一生懸命で、お茶をご自服の後の笑顔に接して、私も幸せを頂きました。水屋は教室の五名（八十二歳）の手伝いのお陰、総で感謝です。些細なことから、茶道を理解していただき、次の一步と羽ばたいていただきたいと願っています。

軸 「秋露白如玉」

有馬頼底筆

花 すすき 秋海棠

ほととぎす



秋明菊

雁がね草他

宋全籠

香合 法隆寺古材（百済観音堂落慶記念品）

「基礎から創作へ」

橋爪 荅苑



平成二十七年九月二十六日に開催された高校留学生書道体験学習会は、留学生及び日本の高校生も沢山参加していただき、楽しい時間を過ごせました。初めて筆を持ち、初

めて引く線、どんな感触だったのだろうか、また墨の香りはどんなものだったのだろうか、そんな事も聞ける時間もないまま、慌ただしい時間が過ぎてしまいました。先ずは線の引き方（直線及び曲線）を練習してもらい、用意した一字で意味をなす漢字の見本を見せ、その中から自分が書きたい文字（意味）を選んで、

半紙に練習をし、最後にはそれを団扇に仕上げ、お土産に出来るようにしました。今回は日本の高校生の参加が多かった為に、少し目の届かない状況が生じたかと思えます。留学生一人に対し一人の日本の高校生が一人つくような感じの方が望ましい気がします。留学生の作品は、自由で、伸び伸びした線の仕上がりになっていたと思います。

「大学院留学生伝統文化体験学習会」

日時：平成二十七年十二月十九日（土）

十三時半～十五時

会場：鴨沂会館三階和室、新館一階会議室および談話室

参加者：外務省MIRAIAプログラム参加大学

大学院留学生三名 ルーマニア女子学生、英国男子学生、

タジキスタン女子学生

A F S 交換高校生 二名

ドイツ女子生徒（京都橘高校 紫野高校 留学生）

A F S ボランティア 三名

授業：草月流 華道「基本のいけばな・フリースタイルのいけばな」

講師 木平 珠影 助手二名

裏千家 茶道「盆略点前の実習と呈茶」

講師 真継 宗美 助手四名

書道 「好きな漢字を書く」

講師 重村亜紀子

「基本のいけ花とフリースタイルのいけ花」

木平 珠影

基本いけ花を説明し、実際各自でいけ込んでいただく。全くいけ花を知らない留学生が、とても簡単にしかも美しくいけあがることを実感して、日本のいけ花の簡単さと面白さを学ばれ、あらためて日本のいけ花の面白さを理解され、有意義な「ひととき」であった。



「盆略点前と呈茶」

真継 宗美

大学院留学生の茶道体験学習のボランティアは初めての経験です。冬の季節、三階八畳の和室に電気ですが炉があります。今回は炉手前を見学いただき、各自盆略点前を体験していただき、正座が大変で、毛氈を敷きました。大学生 三名 高校生 二名 付添 二名 鴨沂会 矢島

様他三名 十一名で八畳では、狭く感じました。炉の

茶席ははじめてのようであらうです。毛利さんの手前を真剣に拝見され、点だしと和菓子で一服、各自盆略点前、帛紗さばき、茶筌で茶をたてるのは初めてのようであらうです。私としては、ご指導、ご自前で飲まれた笑顔に安堵しました。

軸 「無事」画賛「江戸時代の茶筌売

相国寺管長 有馬頼底筆

花 加茂本阿彌椿 柴蘭の実 万両 八代高田焼壺

香合 狸 信楽 高橋楽斎造

「好きな漢字を書く」

重村亜紀子

まず、大学院留学生が熱心なのに、とても驚きました。また、京都鴨沂会の皆様の取り組みの素晴らしさを感じることが多かったです。私としても、とても貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。私は、書道を担当





りましたが、京都鴨沂会の益々の発展と皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

MIRAIプログラム大学院留學生のホームステイ

「平成二十七年十二月十八日サブリナが我が家にきました」

西村 和子

A F S が日本政府外務省の監修する「対日理解促進プログラム—MIRAIプログラム」に参加を要請され 京都支部はイギリス、ルーマニア、タジキスタンの三名の大学

させて頂いたとき、様々な書体で好きな漢字を書くということにチャレンジしました。そして、留学生に書道の楽しさを母国に持ち帰っていただきたく、色紙と团扇に清書していただきました。私自身の反省としては、

もう少し書の基礎基本、基礎点画の筆使いの紹介をしてもよかつたのではないかと考えています。最後まで院生を受け入れました。たった二泊三日の滞在でしたがこの試験的プログラムが成功を生むなら二〇一七年から本格的に「MIRAIプログラム」が発足するそうです。さて、我が家に来たサブリナは二十一歳のタジキスタン人女性。とてもフレンドリーで初めての日本に興奮状態で古いだけの我が家をとて喜んでくれ部屋に入ってもスカイプで友人とやり取りしている声が大きく響いておりました。私の拙い英語も彼女は聞き取ってくれ私も楽しい時間を過ごせたと思っております。ただ、彼女は日本の物価の高さに驚いた様子で今度日本に来るときはたくさんお金を持ってくると申しておりました。(彼女が家族に買った土産はチョコボールと漫画のみ) 彼女とは今でもとても良い関係ができGメールで情報交換できています。「国際交流は草の根から」を実感できた三日でありました。

